

全国医学部長病院長会議 研究・医学部大学院のあり方検討委員会  
 研究医育成のための実態調査【大学院】：予備調査

資料2  
 今後の医学教育の在り方に関する検討会（第8回）  
 R6.3.18

大学院における正規の年限（4年）での学位取得者数（早期修了を含む）

合計	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率
北海道大学	90	59	65.6%	90	39	43.3%	105	66	62.9%	107	42	39.3%
東北大学	164	126	76.8%	157	115	73.2%	158	102	64.6%	125	83	66.4%
東京大学	225	142	63.1%	217	142	65.4%	231	141	61.0%	217	144	66.4%
慶應義塾大学	107	40	37.4%	94	46	48.9%	93	36	38.7%	85	37	43.5%
順天堂大学	140	128	91.4%	160	155	96.9%	178	158	88.8%	179	155	86.6%
名古屋大学	202	61	30.2%	191	73	38.2%	169	61	36.1%	164	53	32.3%
京都大学	160	43	26.9%	174	34	19.5%	186	36	19.4%	187	30	16.0%
大阪大学	177	52	29.4%	172	64	37.2%	184	71	38.6%	177	56	31.6%
神戸大学	93	47	50.5%	110	72	65.5%	109	69	63.3%	110	71	64.5%
兵庫医科大学	51	29	56.9%	43	17	39.5%	48	18	37.5%	51	23	45.1%
香川大学	36	12	33.3%	23	14	60.9%	35	19	54.3%	41	16	39.0%
熊本大学	75	29	38.7%	88	34	38.6%	78	33	42.3%	64	25	39.1%
計	1,520	768	50.5%	1,519	805	53.0%	1,574	810	51.5%	1,507	735	48.8%

全国医学部長病院長会議 研究・医学部大学院のあり方検討委員会  
研究医育成のための実態調査【大学院】：予備調査

大学院における正規の年限（４年）での学位取得者数（早期修了を含む）

基礎医学系	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率
北海道大学	54	37	68.5%	51	23	45.1%	53	36	67.9%	63	28	44.4%
東北大学	29	32	110.3%	33	23	69.7%	36	27	75.0%	20	13	65.0%
東京大学	60	38	63.3%	76	49	64.5%	67	43	64.2%	66	44	66.7%
慶應義塾大学	15	5	33.3%	9	3	33.3%	14	6	42.9%	14	10	71.4%
順天堂大学	13	15	115.4%	15	15	100.0%	15	12	80.0%	14	13	92.9%
名古屋大学	33	7	21.2%	20	12	60.0%	23	6	26.1%	23	9	39.1%
京都大学	26	8	30.8%	31	7	22.6%	30	4	13.3%	28	8	28.6%
大阪大学	29	12	41.4%	27	10	37.0%	30	8	26.7%	31	14	45.2%
神戸大学	10	5	50.0%	14	10	71.4%	10	8	80.0%	15	5	33.3%
兵庫医科大学	9	2	22.2%	4	1	25.0%	6	2	33.3%	1	1	100.0%
香川大学	4	3	75.0%	2	0	0.0%	2	1	50.0%	7	3	42.9%
熊本大学	22	13	59.1%	28	12	42.9%	23	13	56.5%	25	6	24.0%
計	304	177	58.2%	310	165	53.2%	309	166	53.7%	307	154	50.2%

臨床医学系	2019年度			2020年度			2021年度			2022年度		
	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率	入学者数	取得者数	取得率
北海道大学	29	19	65.5%	34	14	41.2%	40	23	57.5%	35	9	25.7%
東北大学	116	86	74.1%	106	77	72.6%	104	57	54.8%	85	62	72.9%
東京大学	149	95	63.8%	133	89	66.9%	144	87	60.4%	135	93	68.9%
慶應義塾大学	89	35	39.3%	82	41	50.0%	71	27	38.0%	69	26	37.7%
順天堂大学	121	110	90.9%	139	133	95.7%	160	142	88.8%	153	133	86.9%
名古屋大学	161	49	30.4%	159	56	35.2%	135	46	34.1%	133	39	29.3%
京都大学	128	34	26.6%	134	24	17.9%	140	28	20.0%	146	20	13.7%
大阪大学	136	36	26.5%	129	46	35.7%	132	50	37.9%	131	34	26.0%
神戸大学	83	42	50.6%	94	62	66.0%	97	59	60.8%	94	65	69.1%
兵庫医科大学	39	27	69.2%	37	16	43.2%	38	15	39.5%	44	18	40.9%
香川大学	29	7	24.1%	20	13	65.0%	31	17	54.8%	30	11	36.7%
熊本大学	52	16	30.8%	57	20	35.1%	53	20	37.7%	37	18	48.6%
計	1,132	556	49.1%	1,124	591	52.6%	1,145	571	49.9%	1,092	528	48.4%

# 全国医学部長病院長会議 研究・医学部大学院のあり方検討委員会

## 研究医育成のための実態調査【大学院】：予備調査

### 博士論文の審査基準

1. ジャーナルアクセプト後に学位審査	9	75.0%
2. 書き上げ論文で学位審査	2	16.7%
3. 上記二者の併用	3	25.0%

### 書き上げ論文の審査方法

東北大学	本研究科規程の定めるところにより、博士論文の審査及び最終試験を約半年間かけ、3～4名の審査委員のもと実施している。学位審査は2段階とし、第一次審査では口頭での審査を全員義務付けており、第一次審査合格後の最終審査では、口頭または書面にて審査を行っている。
東京大学	<p>審査委員会の審査は、以下の観点から学位論文を評価し、必要な修正を求め、かつ可否の判断をするものとする。ただし、学位論文の表現および書式に不備があり内容の把握が困難な場合、主査(副査)は、審査委員の同意を得て審査会の前に修正を求めることができる。</p> <p>(1) 研究テーマの着眼点、研究の進め方の独創性  (2) 結論を導くに至った根拠の豊富さ、確実さ  (3) 研究成果の重要度  a. 当該領域における研究進展への貢献度  b. 予見される波及効果  (4) 研究の完成度  英文論文として発表していない場合、近い将来発表の見込みの有無  (5) 当該研究への主体的取り組み度  (6) 当該研究の理解度  (7) 関連領域の研究についての熟知度  (8) 研究倫理の遵守  (9) 副論文がある場合、上記の8項目について同様に評価し、本論文の評価に加味することができる</p>
順天堂大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャーナルアクセプト後の論文と、ジャーナル投稿前の論文での学位審査の実施方法に特段の区別はしていない。予め定めた学位審査基準に則って審査を行っている。</li> <li>・ジャーナル投稿前の論文については、形式や内容について受理可否の審査を厳格に行っている。</li> </ul>
大阪大学	申請時に4年次の在学者のみが申請でき、単著の英文論文とし、原則として学位申請者が自身で取得したデータにより作成する

### 学位の質担保の工夫

東北大学	博士學位論文とは別に、博士學位論文の骨子となる論文を、査読性のある学術誌に筆頭者として1編以上投稿することを義務づけている。また、学術論文投稿までの指導には、指導教授・所属研究室の教育担当教員・本学独自のアドバイザー教員等が複数体制で行っている。
東京大学	「博士學位論文作成要項」を配布し、論文審査にあたっての留意事項を周知し、質の担保をはかっている。
順天堂大学	・各学年において研究進捗状況の確認を行い(1年次:研究計画書、2年次:研究進捗状況報告書、3年次:ポスターセッション)、指導教員以外の研究者からのコメントを研究に生かす機会を設けている。
大阪大学	特別に学位論文評価委員会委員を大学院教務委員長が指名し、オリジナリティが高く医学生命科学の革新的な展開に寄与する研究であり、十分なデータに裏付けられ、基本的に論文を掲載する難易度の高いジャーナル(当該年度のJournal Impact Factorで10程度以上を目安)の掲載論文と同等以上の水準にある論文かどうかを確認する

## (英文雑誌アクセプトで学位取得の現況)

- \* 大学院4年間の学位取得率の低下。
- \* ここ数年、特にWET研究においては論文がアクセプトされるまでの時間が大幅に延長び、Editorのハンドリングも遅い。
- \* 良い仕事、大きなテーマにチャレンジしている大学院生程、学位取得が遅れるという矛盾。
- \* 6～7年でアクセプトされ学位を取得しても、その時点で燃え尽き・力尽きてしまっている。
- \* PIにとっては、学位取得に左右される小粒論文より、まとまった大きな仕事を時間をかけてでも一流紙に発表していきたい。
- \* 臨床系の大学院入学は後期研修後になり、さらに取得が遅れると留学など次のステップに進めない
- \* 英文雑誌論文アクセプトで学位というのは、学位評価をアウトソーシング、外部機関に丸投げしている。
- \* 本来学位とは、雑誌に採択の有無にとらわれず教授会の見識として「学位相当の仕事」として出すべき。
- \* 医学系研究科大学院の定員充足はその6～7割を臨床系の大学院生（医局人事）で充足している現状。
- \* 関連病院から大学院生として大学に戻しても、入れ替わりの人員を関連病院に戻せない。

## (Thesis 書き上げ論文で学位取得の懸念点)

- \* 如何にして学位の質を確保、担保するか？乱発にならないか？
- \* 教員の負担を増やさないようにするか？
- \* Thesis, 英文雑誌それぞれの査読者から追加実験を求められる負担。
- \* 学位を取得すると、英文雑誌掲載前に担当の大学院生が姿を消してしまう？
- \* 関連病院での勤務のあとに、英文雑誌掲載まで頑張れない。
- \* 学位取得後、公開～～という文科省側の条件は？（他学部の学位取得との兼ね合い）。